

# 福祉の現場から 未来に羽ばたく学生を応援

株式会社介護コネクション代表取締役  
ミライ塾塾長 奥平 幹也 さん

## 進学困難な学生と 介護施設をマッチング

「介護インターンシップ型自立支援プログラム「ミライ塾」について教えてください。」

「「ミライ塾」は、経済的な理由で進学が困難な学生が自分の力で進学するための自立支援プログラムです。学ぶ意欲があっても進学をあきらめざるをえない学生と、慢性的な人材不足に悩む介護業界の双方の社会問題を結びつけ、同時に解決する仕組みとして、2015年から株式会社エス・エム・エスの支援のもと取り組みを開始しました。」

大学等に入学が決定すると、入学前に入学金や前期の学費を納入する必要がありますが、一般的な奨学金制度では、貸付のタイミングが入学後となります。そのため、進学を希望する学生は国や民間の金融機関による教育ローンを活用するのが一般的ですが、家庭環境によっては、保護者が借入れを嫌がるケースや、そもそも与信に通ら

ず、入学前に必要なお金を用意できないために進学をあきらめるケースも多くみられます。さらに最近では奨学金を活用した結果、卒業後に奨学金を返済できず経済的に破綻するなどの問題も発生しています。

この問題を解消するために、日本学生支援機構の奨学金と併用し、現状の仕組みでは対応できていない入学前に必要な学費を、受け入れ法人から無利息で貸与する仕組みをつくることで、大学等への進学を支援しています。学生はアルバイト就労して生活費と学費のバランスをとりながら給与の一部を学費の返済等に充てます。法人への返済は14カ月程度で完了し、できるだけ卒業後に借入金を残さないよう残りの期間は貯金できるようにしています。入学前から卒業までのお金の流れや、アルバイトと学業との両立の仕方などの生活イメージは可視化し、卒業後の返済のリスクを小さくするようにサポートしています。

昼間に学校へ通う学生にとっては、新聞奨学生や居酒屋等で週5日早朝や深夜にアルバイトするよりも、施設等で夜勤勤務等のア

ルバイトをするほうが学業とのバランスがとりやすく、収入も安定しやすくなります。また受け入れ先にとっても、人を集めにくい時間帯や曜日に学生が勤務してくれることが多いため、双方にメリットがあります。ときどき誤解されるのですが、「ミライ塾」は介護の専門家をつくることを目的にはしておらず、いわゆる「御礼奉公」の仕組みではありません。あくまで在学期間中のみアルバイト就労であって、仕事をおして超高齢社会について学ぶ社会教育の場として、学生の可能性を広げる取り組みです。

## 事業を始めた2015年に1人、2016年に4人、2017年に4人を

受け入れ、現在合計9人の学生が塾生としてがんばっています。塾生は全国から受け入れており、対象は浪人生を含む受験生、大学または大学院生、専門学生など、さまざまです。

受け入れエリアは1都3県で、受け入れ法人数は11です。施設の形態は、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、グループホーム、特別養護老人ホーム等です。受け入れ先はどこでもいいとは思っていません。「ミライ塾」の趣旨に賛同していただき、学生を大事にしてくれて、ともに支援していこうと名乗りを上げてくださった法人に受け入れをお願いしています。

## 塾生であることが 学生の誇りとなるように

「塾生はどのように選抜するのでしょうか。」

作業としてとらえていた学生が相手の気持ちに立ってケアできるようになるなど、排泄に対するネガティブなイメージがなくなります。

「「ミライ塾」のめざす姿とは何でしょうか。」

これまで、介護や高齢者と縁がなかった学生たちが、「ミライ塾」をおし何かを感じながらしっかりと成長している姿に手ごたえを感じています。たとえば、システムエンジニアをめざしている塾生第1号の学生は、ITで介護現場の問題を解決できるのではないかと考え、介護福祉士の資格をもったシステムエンジニアになることをめざし、自ら実務者研修を修了しました。「ミライ塾」がめざしているのは、彼のように学校での学びと介護という2つの専門性をもった人材を育てることです。

超高齢社会を迎えた日本では、さまざまな業界で高齢者や認知症に対する理解が求められています。だからこそ、学生時代の介護経験は、就職活動においても必ず強みになると思います。「ミライ塾」と名づけたのは、未来に羽ばたく学生たちを応援する塾でありたいとの想いからです。

松下電器産業の創業者である松下幸之助さんの政治塾「松下政経塾」のように、「ミライ塾」の塾生であることが学生の誇りとなり、また塾生が超高齢社会で活躍できる優秀な人材として社会から認められるように、これからも着実に結果を出しながらがんばっていききたいと思います。



profile

おくだいら・みきなり  
1999年早稲田大学人間科学部卒業。大学卒業後、日本不動産コンサルティング株式会社に入社し、介護施設に特化した投資ファンドの仕事を担当。2012年に株式会社介護コネクションを起業。新聞奨学生だった自身の経験を活かし、介護体験をしながら進学をめざすインターンシップ型自立支援プログラム「ミライ塾」を2015年にスタート。

入塾までの流れとしては、ウェブからの問い合わせや高校の先生からの相談を受け、本人や保護者と面談します。その際に、家庭環境等の把握や進学希望などを確認しています。そのうえで、ミスマッチをなくすために受け入れ法人を複数紹介し、介護体験をしてもらいます。介護体験を通じて、介護の仕事や、働きながら進学するとはどういうことかをイメージしてもらいながら、覚悟を固めてもらいます。私自身が新聞奨学生として大学に進学した経験から、働きながら進学するということが、そして学校生活を意味のあるものにするためには、それなりの覚悟が必要だと思っています。覚悟をもてない学生に対しては、借金をしてまで現在のタイミングで進学する必要があるのかどうかを考えてもらうようアドバイスすることも、私の役割だと思っています。

進学のためにしっかりと覚悟をもつことができた学生については、それぞれの状況に合ったプログラムを作成し、受け入れ希望先の法人で採用面接を受け、受け入れが決定すると、学費の貸し付け等スケジュールを確認しながら入塾に向けて準備を進めます。

## 住まいの相談から授業の取り方、仕事のことなど多岐にわたってフォロー

力を入れているのは社会人としての基礎力の育成で、とくに高齢者やスタッフとの関わり方について、つねに相手の気持ちを想像しながらのコミュニケーションをとるよう指導しています。たとえば学生の多くが、初めは排泄業務について抵抗感をもつようですが、ケアされる側の気持ちも考えるきっかけをつくることで、排泄ケアを